

全国大学生生活協同組合連合会 第68回通常総会 お祝いのメッセージ

消費者庁長官 新井 ゆたか

本日は、全国大学生生活協同組合連合会第68回通常総会が、関係者の皆様の協力により開催されますことを心からお慶び申し上げます。また、貴連合会におかれましては、日頃より消費者行政の推進に御理解・御協力いただき、感謝申し上げます。

全国大学生生活協同組合連合会におかれましては、機関誌Campus Lifeにおいて、「大学における消費者教育の必要性」を特集し、成年年齢引下げ後の消費者トラブル被害やSNSで加害者にならないための自立を支援する消費者教育について取り上げていただく等、日頃より、学生の消費者トラブル防止や安全で安心な暮らしを実現するための啓発活動を行うとともに、リユース商品を扱うフリーマーケットの開催とその売上金の被災地への寄付活動に代表される消費を通して持続可能な社会を意識する活動にも積極的に取り組んでおられることに、改めて敬意を表します。

大学生活や将来に不安等を抱える学生の消費者被害を未然に防止するため、違和感に「気づく力」、きっぱりと「断る力」、ひとりで抱えず「相談する力」といった「消費者力」を鍛えていくことが必要だと考えています。消費者庁では、引き続き貴連合会と連携して、「消費者力」の育成・強化を図るためのVR教材を活用した周知啓発や、消費者教育の取組の強化を図ってまいります。

また、未来を担う学生は、将来にわたって消費者市民社会を牽引していく重要な担い手です。そうした若い世代の皆さんには、「自分で考え、自らの消費が環境、経済、社会及び文化等の幅広い分野において、影響を及ぼすことを理解し、適切な商品やサービスを選択できる力」を育てていただきたいと考えています。エシカル消費に関する調査によると、10代の皆さんが「エシカル消費」という言葉やその内容を知った契機としては、「学校での学習」を挙げた人が最も多くなっています。今後、学校教育の中でエシカル消費について学んだ若い世代の皆さんが、自らの消費行動を起点として、社会を変えていく原動力になることを期待しています。近年エシカル消費にまつわる人権問題、環境問題、食品ロスなどの社会課題も大きく取り上げられている一方で、フェアトレード商品、リサイクル

ル製品、寄付付き商品、サステナブルファッションなど、様々な立場の人や社会を考える商品やサービスが広がっています。学生が社会の一員として、自分事として主体的に捉え、エシカル消費をはじめSDGsに関わる活動に取り組んでいけるよう応援してまいりたいと考えています。

最後に、全国大学生生活協同組合連合会の活動が今後ますます発展し、より一層大きな役割を発揮されることを祈念いたしまして、私のお祝いのメッセージといたします。